

今日の説教のポイント <使徒言行録9章1節~19節a>

新約聖書中、最も興味深いパウロの回心。そこで何が起こったのか？！

- ①「さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司の所へ行き、～それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。」(9:1~2)

パウロは、使徒言行録では8章の1節で初めて出て来ます、「サウロは、ステファノの殺害に賛成していた」と。本人も後に、『ガラテヤの信徒への手紙』の中で、「私は、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていました」(1:13)と語っています。そして上に引用した9章1~2節の内容です。このパウロが180度変えられて、神の教会を迫害する者から神の教会のために命を賭する者となったのです。

この話を聞くと、信仰を持たない人は、パウロの心の中で起こった変化とその理由に興味が行きがちです。「どうしてパウロは変わったんだろう。キリスト者を迫害していたことがいつの間にか後ろめたくなっていたのでは」等々。しかし、聖書は一切、そのようなことは記していません。大事な点は、パウロが意識的・無意識的にどう思っていたにせよ、そんなことは一瞬に全て吹き飛ばしてしまう出来事に出会ったということです。「神が起こされた」出来事に出会ったのです！パウロにとって、それは、もう誰も消すことの出来ない驚愕の事実となったのです。イエス・キリストの神が、事実、おられた！それがパウロのキリスト信仰の始まりであり、全てなのです。信仰は、「どのような思いを持ったら信じることができるようになるのか」を考えるようなところから始めるものではないのです。

今の私たちにパウロと同じことは起こりません。否、起こらないと言い切ることはできませんが、起こらなくても全く構わないのです。なぜなら、今の私たちには、聖書を読むことを通してこのことが信じられるようになる道を神様は用意して下さいました。よみがえられた主はトマスに言われました、「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである」と(ヨハネ福音書20:29)。

- ②「アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて…」(17)

神様は、パウロの回心のために、信仰者アナニアを用いるプロセスを採られました、そんな面倒なことをされなくてもよかったのに。私たちには、「これが神様のなさり方なのだ」と言うことしかできません。しかし、それでいいではありませんか！人が人によって導かれ助けられる。素晴らしいなさり方です！大事なことは、神様は今の私たちにもこのことを求めておられるのだ、ということです。信仰者とは、赦すことを通して神を伝えるために用いられる存在なのです。